

## 日本と韓国における風景評価の比較研究 A Comparative Study on Landscape Evaluation Between Japan and Korea

水内 佑輔<sup>1\*</sup>, 古谷 勝則<sup>1</sup>, SON, YongHoon<sup>2</sup>  
Yusuke Mizuuchi<sup>1\*</sup>, Katsunori Furuya<sup>1</sup>, SON, YongHoon<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 千葉大学大学院園芸学研究所, <sup>2</sup> ソウル国立大学環境大学院

<sup>1</sup>Graduate School of Horticulture, Chiba University, <sup>2</sup>Graduate School of Environmental Studies, Seoul National University

### はじめに

本研究では、日本と韓国の両国で撮影した風景写真を、両国の大学生が識別・評価することにより、両国の人々の風景の理解の違いを明らかにすると共に、評価される風景要素の特徴について明らかにすることを目的とした。

### 研究方法

1) まず両国の国立公園の風景の写真を収集した。次に、「滝」「森林」「海岸」「河川」「建築物」「湿地」「山岳」「湖」の景観を各国 37 枚、合計 74 枚の写真を選び出した。2) これら写真を対象に大学生 105 名に、写真をグループに分けてもらい、それぞれのグループに名称をつけた。3) さらに、同じ被験者が、写真を好ましさ(5段階)と異国情緒(3段階)で評価した。4) また、それぞれ国らしさを示す写真を3つずつ選択させることによって、その国らしい自然風景を抽出した。日本の被験者は千葉大学の所属学生 52 名であった。韓国の被験者は Seoul National University 所属の学生 53 名であった。写真グループの分析には、クラスター分析(ワード法、平方ユークリッド距離)を用いた。評価の違いには、マン・ホイットニーの U 検定を使用した。

### 研究結果

写真の分類では、日本と韓国で異なるグループに分類された写真が7枚あった。そのうち3枚は、日本人が「河川」としているものを、韓国人が「湖」に分類した。また、滝と寺院がセットとなった日本の名所の写真では韓国人は「滝」と分類する一方で、日本人は建築物などのグループ名称の「人文景観」と分類した。好ましさの分析では、9つの写真で有意差が見られた。異国情緒の評価では、36枚の写真が有意差を示さなかった。この36枚のうち、日本の写真が15枚、韓国の写真が21枚であった。また日本と韓国の両国共に「森」「海岸」の異国情緒の評価が低かった。相手国らしさを示す写真の選択では、人文景観が半数(日本59%、韓国49%)を占めた。一方で、自国らしさを示す写真の選択では、人文景観(日本25%、韓国29%)や、著名な名所などの風景が選ばれていた。特に韓国人は、自国らしい写真の選択にばらつきが見られた。

### 考察

写真の分類では、日本人と韓国人は、ほぼ同様の景観グループを識別した。しかし、韓国人が「湖」と分類した「河川」の写真には流域に岩が見られないという特徴を持つ。つまり、韓国人は河川と岩をセットで捉えている可能性がある。森林や海岸などの景観では、日本と韓国はほぼ同様に異国情緒を感じていなかった。しかし、建築部を含む人文景観では、それぞれの国の特徴を見分けることができたようであった。これら評価結果からは、日本人と韓国人の風景評価には共通点が多いことを示している。国らしさを示す写真の選択からも、人文風景が国らしさを区別する要素となることを示していた。国らしさを示す写真の選択からは、自然風景のみの写真が選択されることが少なく、日本人と韓国人は、相手の国の自然風景に明確なイメージを持っていない可能性がある。特に、韓国では韓国らしい代表的な自然風景が共有されていない可能性がある。

両国は風景認識や評価で共通する部分が多く存在する一方で、差異も存在することが明らかになった。今回の調査では大学生を対象としたが、今回の調査結果を踏まえて一般市民を含めた研究に発展する予定である。

キーワード: 風景評価, 日本, 韓国, 国際比較

Keywords: Landscape evaluation, Japan, Korea, International comparison